

令和元年度「授業評価・授業研究報告書」

大学院教育学研究科 兵藤 清一

1. 授業の基本情報

本報告における対象授業は、大学院教育学研究科教育実践高度化専攻における共通基礎科目：「データを活用した学校経営（調査法）」である。登録学生数は8名（リーダーシップ開発コース所属のM1の現職教員）、担当教員は露口健司と兵藤清一であった。本報告は授業の副担当である兵藤が、その立場から授業を概括したものである。

授業の到達目標は、「①データを活用した学校経営の意義と基礎理論を理解することができる。②学校で生成されるデータ（学力データ・学校評価データ等）、勤務校において生成したデータから有益な知見を得るためのデータベース作成とデータ分析の操作を行うことができる。③データ分析結果のまとめとそれに基づくプレゼンテーションを勤務校において行うことができる。」の三つである。授業計画は以下の通りである。

第1回 ガイダンス

第2回 データを活用した学校経営の理論

第3回 勤務校にある既存データからの課題探索

第4回 課題解決に向けた新規データ生成の企画検討

第5回 学校データ分析・表現法(1)

第6回 学校データ分析・表現法(2)

第7回 学校データ分析・表現法(3)

第8回 勤務校において収集・生成したデータ分析実践

第9回 データ分析結果の報告と学習者集団での考察

第10回 分析結果を踏まえた改善策の検討協議

第11回 勤務校で報告するプレゼンテーションの作成と検討

第12回 勤務校でのプレゼンテーション(1)

第13回 勤務校でのプレゼンテーション(2)

第14回 プレゼンテーション後の職員の反応についての省察

第15回 まとめと振り返り

2. 授業概要及び成果と課題

近年英米を中心に、データを活用した学校経営が注目されている。学校管理職には、学校に溢れるデータを活用し、人々を動かす能力が求められつつある。これは、日本でも将来的に、学校管理職に求められる能力であると考えられる。このような背景を踏まえて、本科目でははじめにデータを活用した学校経営の基礎論を学び、その具体的なデータ分析・表現法についての理解を深めた。その後、勤務校にある既存データ、勤務校において新規作成したデータからデータベースを作成し、実際に分析を行った。最後に、改善策の検討、分析結果と提案を勤務校へフィードバックし、学校管理職と省察協議を行った。このように教職大学院で学んだ理論と、学校現場の実践を往還させながら学んだことで、院生は実感を伴った理解となった。今後はさらに、理論知と実践知を往還する探究的な省察力を身に付けていけるよう授業改善に努めていく。